

人口の状況について

主なポイント

- 北九州市の人口は、昭和54年の約106万8千人をピークに減少が続く。【スライド2参照】
- 将来推計人口は、令和27年には77万1千人と予測。【スライド4参照】
- 自然動態は、出生数の減少、死亡数の増加により、マイナス幅は拡大傾向。【スライド5参照】
- 合計特殊出生率は、政令市でトップクラスである一方、出生率は、政令市の中で中位。【スライド6・7参照】
- 死亡率は、政令市の中でトップ。【スライド8参照】
- 婚姻件数、婚姻率ともに減少傾向であり、婚姻率は政令市の中で中位。【スライド9・10参照】
- 未婚率は男性・女性ともに各年代で上昇傾向。【スライド11・12参照】
- 転入者数と転出者数の差である社会動態は、改善傾向である一方、日本人の20～30代は転出超過。【スライド14・15参照】
- 北九州市地域の大学卒業者の市内就職率は、毎年2割程度。【スライド16参照】
- 日本人の地域別の社会動態では、福岡市と東京圏でマイナス幅が大きく、福岡市を除く福岡県内もマイナス。【スライド17参照】

1

推計人口の推移



注：各年10月1日現在

出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

- ・北九州市の人口は、五市合併時の昭和38年は約103万2千人。その後、昭和54年の約106万8千人をピークに減少が続く。
- ・平成17年に100万人を、平成30年に95万人を切り、令和4年は約92万4千人となっている。

2

推計人口の推移

	実数（人）				増減率（％）		
	H17(2005)	H22(2010)	H27(2015)	R2(2020)	H22/H17	H27/H22	R2/H27
北九州市	993,525	976,846	961,286	939,029	▲ 1.7	▲ 1.6	▲ 2.3
門司区	108,677	104,469	99,637	93,842	▲ 3.9	▲ 4.6	▲ 5.8
小倉北区	183,286	181,936	181,878	183,407	▲ 0.7	0.0	0.8
小倉南区	214,624	214,793	212,850	209,028	0.1	▲ 0.9	▲ 1.8
若松区	87,340	85,167	82,844	80,533	▲ 2.5	▲ 2.7	▲ 2.8
八幡東区	75,814	71,801	68,844	64,792	▲ 5.3	▲ 4.1	▲ 5.9
八幡西区	260,070	257,097	256,117	249,933	▲ 1.1	▲ 0.4	▲ 2.4
戸畑区	63,714	61,583	59,116	57,494	▲ 3.3	▲ 4.0	▲ 2.7

注：本表の人口は10月1日現在の数値である。

出典：総務省「国勢調査」

- ・令和2年の国勢調査では、5年前の平成27年と比較して、小倉北区のみが0.8%の増加となっている。
- ・減少率が高いのは、八幡東区（▲5.9%）、門司区（▲5.8%）となっている。

3

将来推計人口

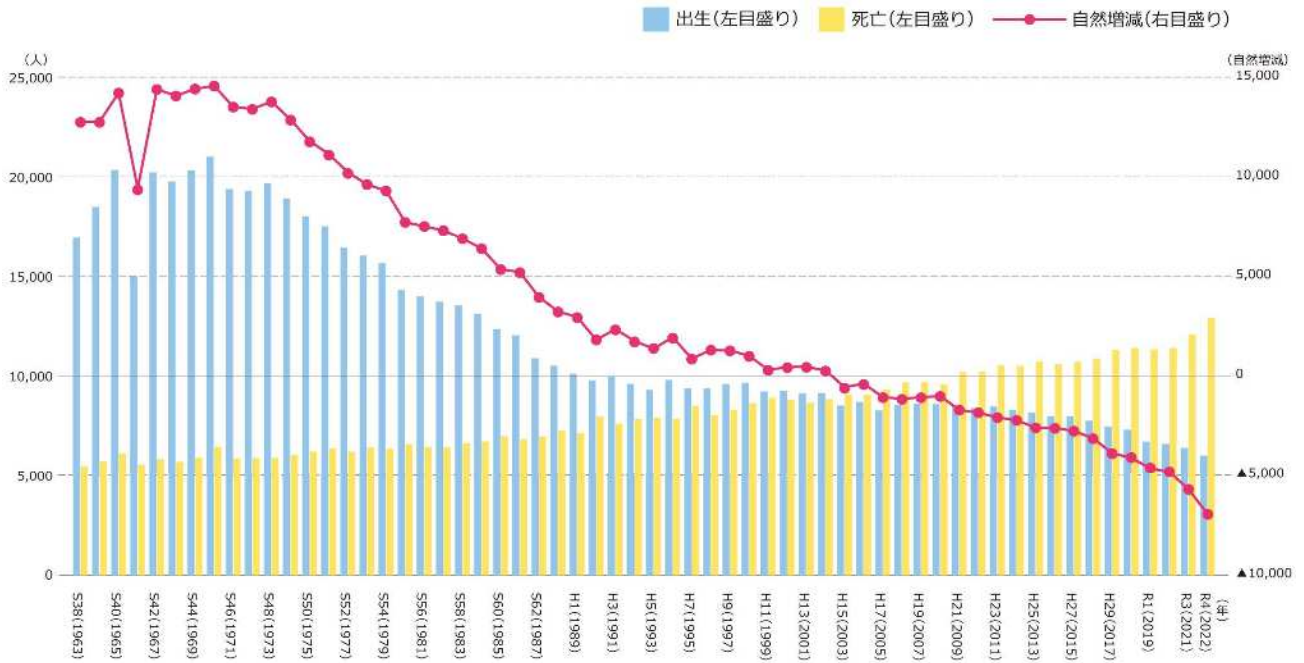


出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」

- ・平成27年の国勢調査を元にした将来推計人口では、令和27年には約77万人と予測されている。
- ・15~64歳の労働人口は40万人を切ると予測されている。

4

出生・死亡数の推移

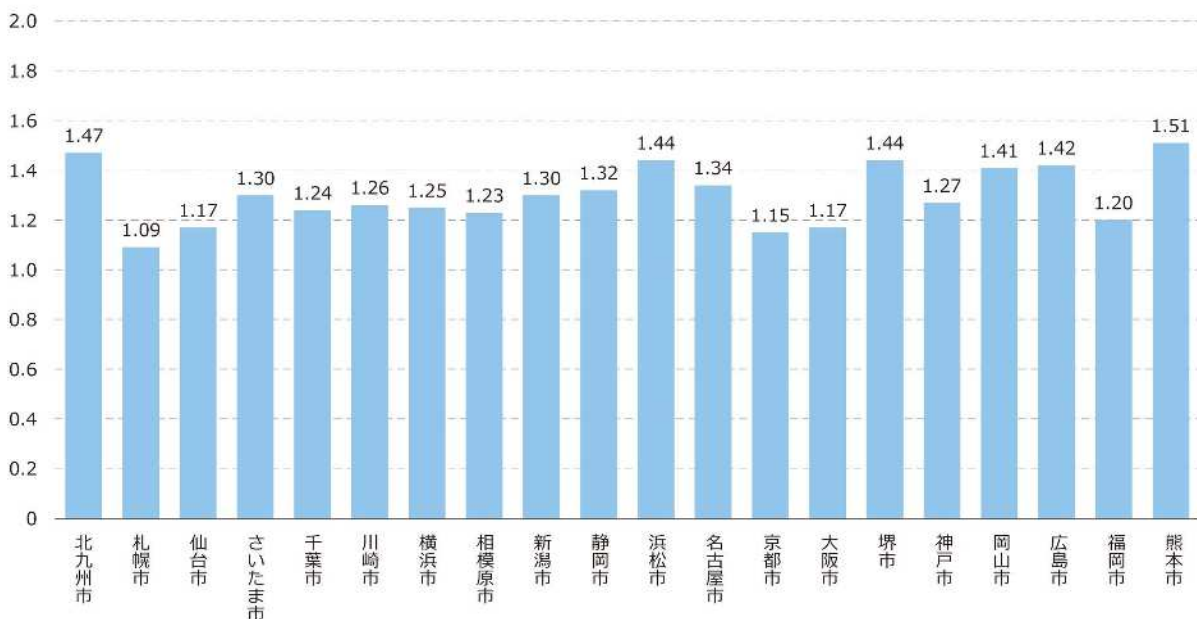


出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

- ・出生数は、昭和45年の約2万1千人をピークに減少傾向にあり、令和4年は6千人を切っている。
- ・その一方で、死亡数は、高齢化を背景に増加傾向にあり、令和4年は約1万3千人と、60年間で約2.4倍となっている。
- ・その結果、出生数と死亡数の差である「自然増減」は、平成15年にマイナスに転じ、令和4年は約7千人のマイナスとなっている。

合計特殊出生率(R2年)

(政令市比較)



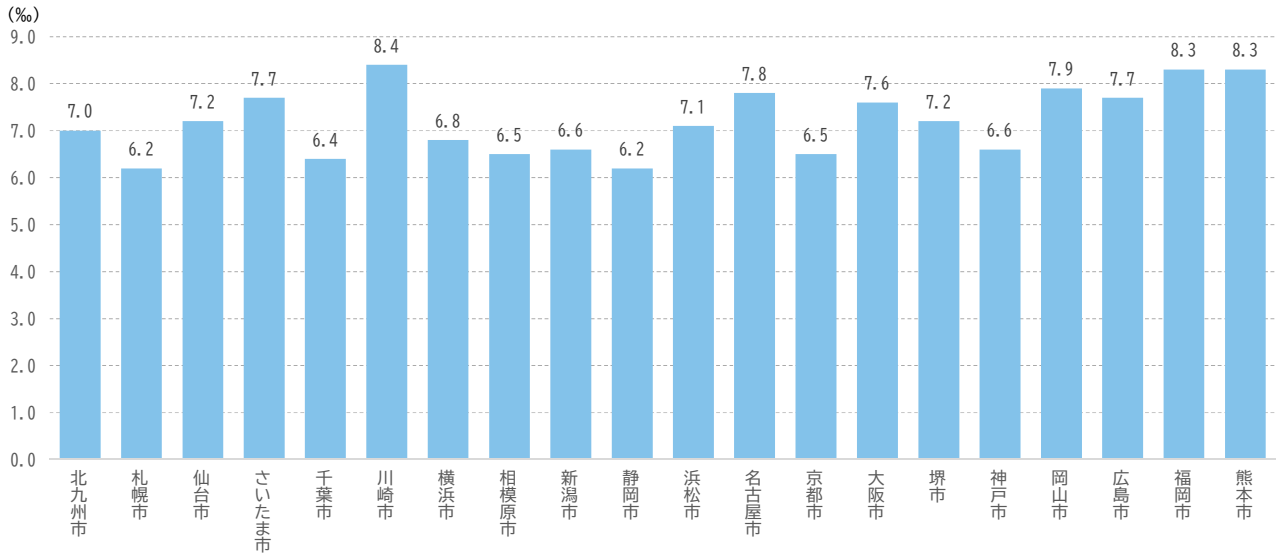
注：合計特殊出生率 15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの

出典：厚生労働省「令和2年人口動態調査」

- ・合計特殊出生率は、政令市の中で、熊本市に次いで2番目となっている。

出生率(R2年)

(政令市比較)



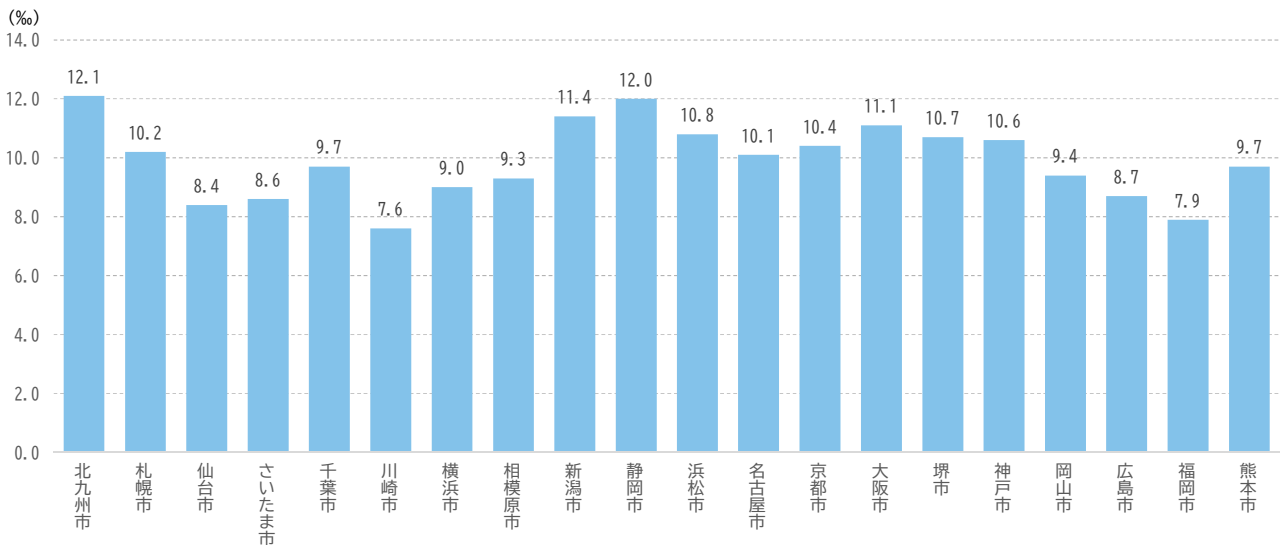
注：算出方法 R2年の出生数/人口総数(R2年10月1日現在)×1,000
※人口1,000人に対する出生数

出典：総務省「令和2年国勢調査」

・出生率は、政令市の中で、高い順から11番目と中位となっている。

死亡率(R2年)

(政令市比較)

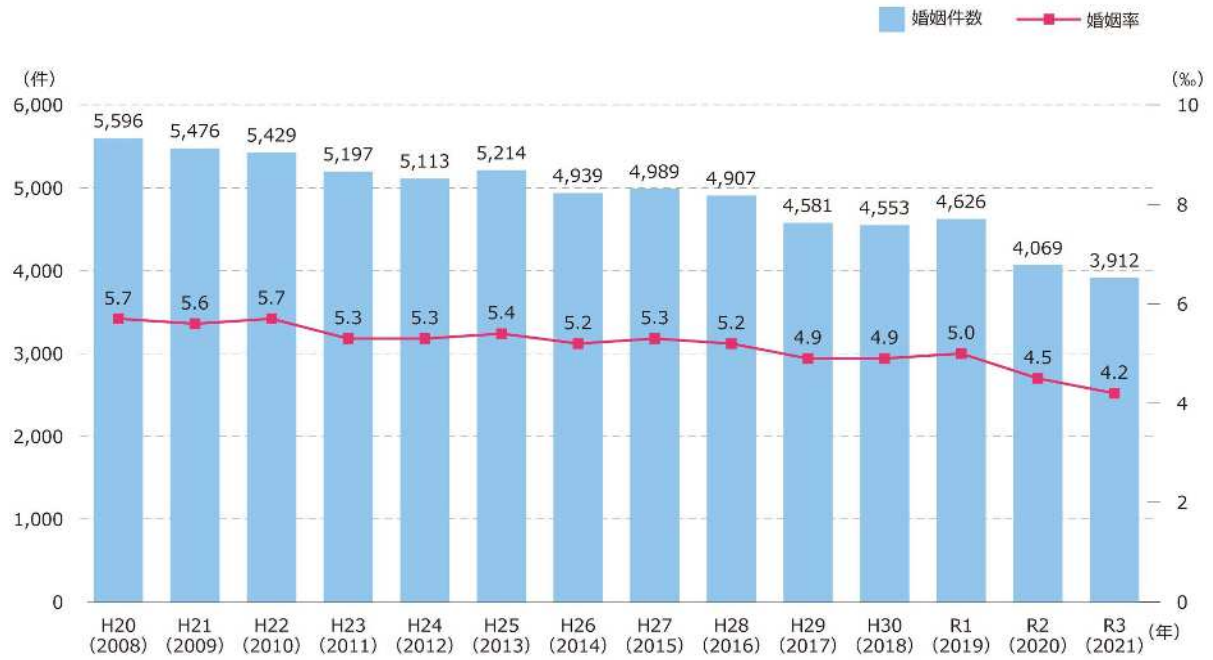


注：算出方法 R2年の死亡数/人口総数(R2年10月1日現在)×1,000
※人口1,000人に対する死亡数

出典：総務省「令和2年国勢調査」

・死亡率は、政令市の中で、最も高い12.1となっている。

婚姻件数及び婚姻率の推移



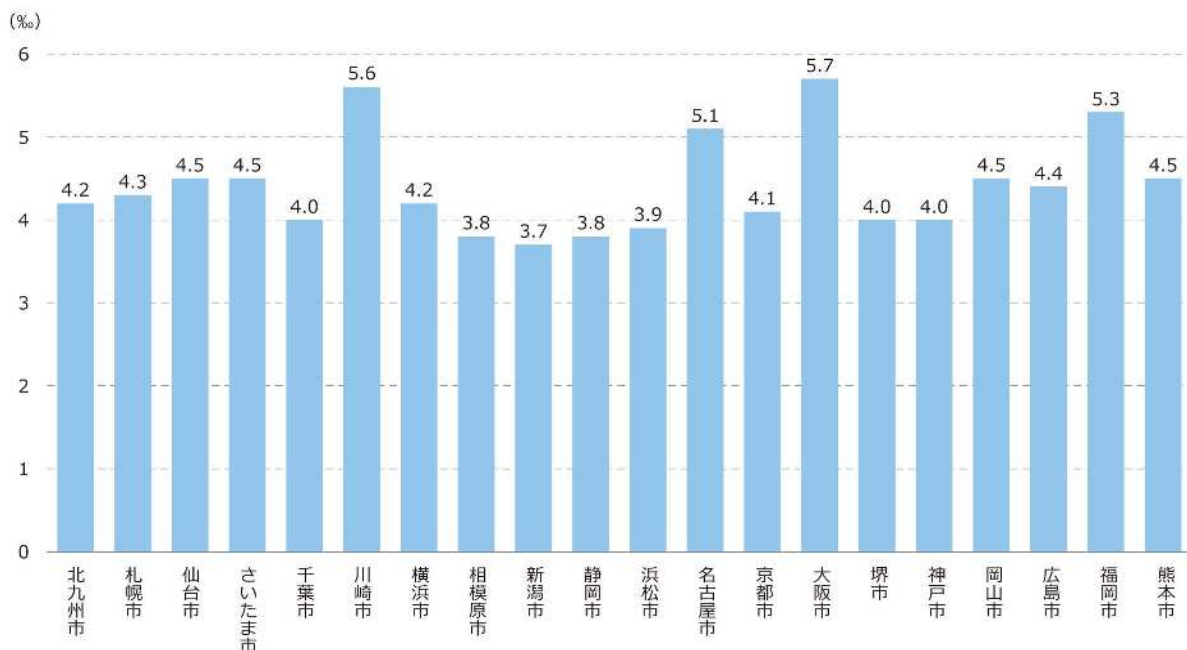
注：婚姻率 人口1,000人に対する婚姻件数の割合

出典：厚生労働省「人口動態調査」

・令和3年と平成20年を比較すると、婚姻件数は約1,700件の減少、婚姻率は1.5ポイントの減少となっている。

婚姻率(R3年)

(政令市比較)

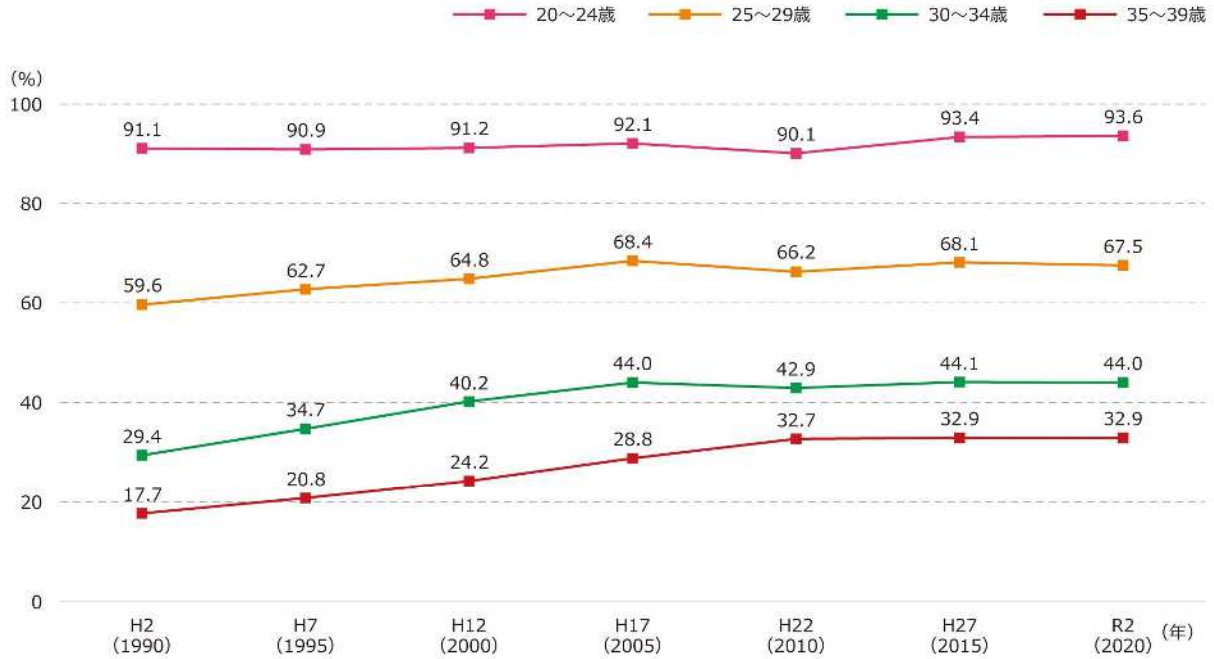


注：婚姻率 人口1,000人に対する婚姻件数の割合

出典：厚生労働省「令和3年人口動態調査」

・婚姻率は、政令市の中で、高い順から11番目と中位となっている。

未婚率(男性)の推移



注：H22年までは配偶関係「不詳」を含む。H27年以降は配偶関係「不詳」を含まない。

出典：北九州市

- ・令和2年の男性の未婚率は、「25~29歳」では7割弱となっており、「30~34歳」では4割、「35~39歳」では3割を超えている。
- ・若干の増減はあるものの、平成2年と比較して、どの年代も増加傾向にある。

11

未婚率(女性)の推移



注：H22年までは配偶関係「不詳」を含む。H27年以降は配偶関係「不詳」を含まない。

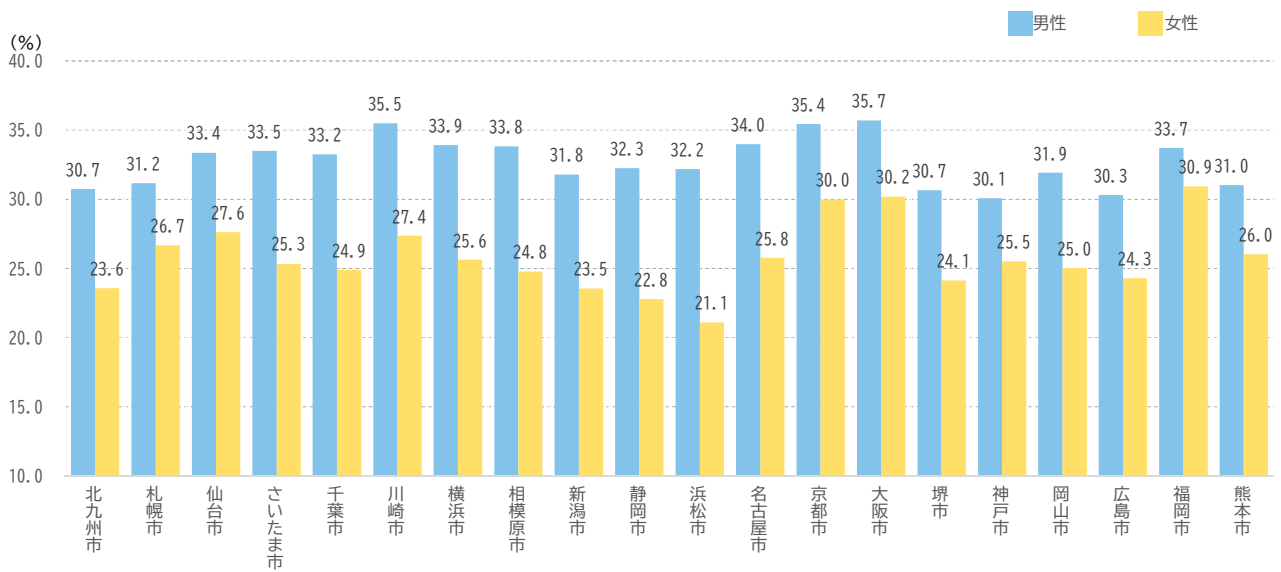
出典：北九州市

- ・令和2年の女性の未婚率は、「25~29歳」では6割弱となっており、「30~34歳」では3割、「35~39歳」では2割を超えている。
- ・若干の増減はあるものの、平成2年と比較して、どの年代も増加傾向にある。

12

未婚率(男性・女性)(R2年)

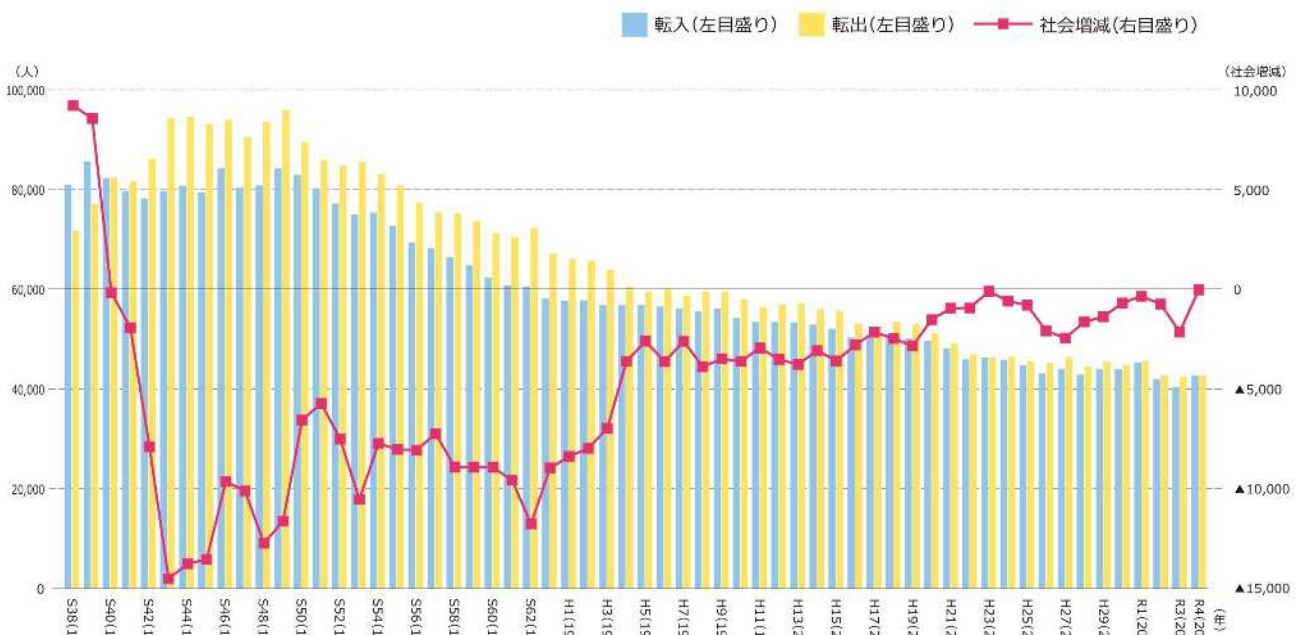
(政令市比較)



出典：総務省「令和2年国勢調査」

・未婚率は、政令市の中では、男性が低い順から3番目、女性は低い順から4番目となっている。

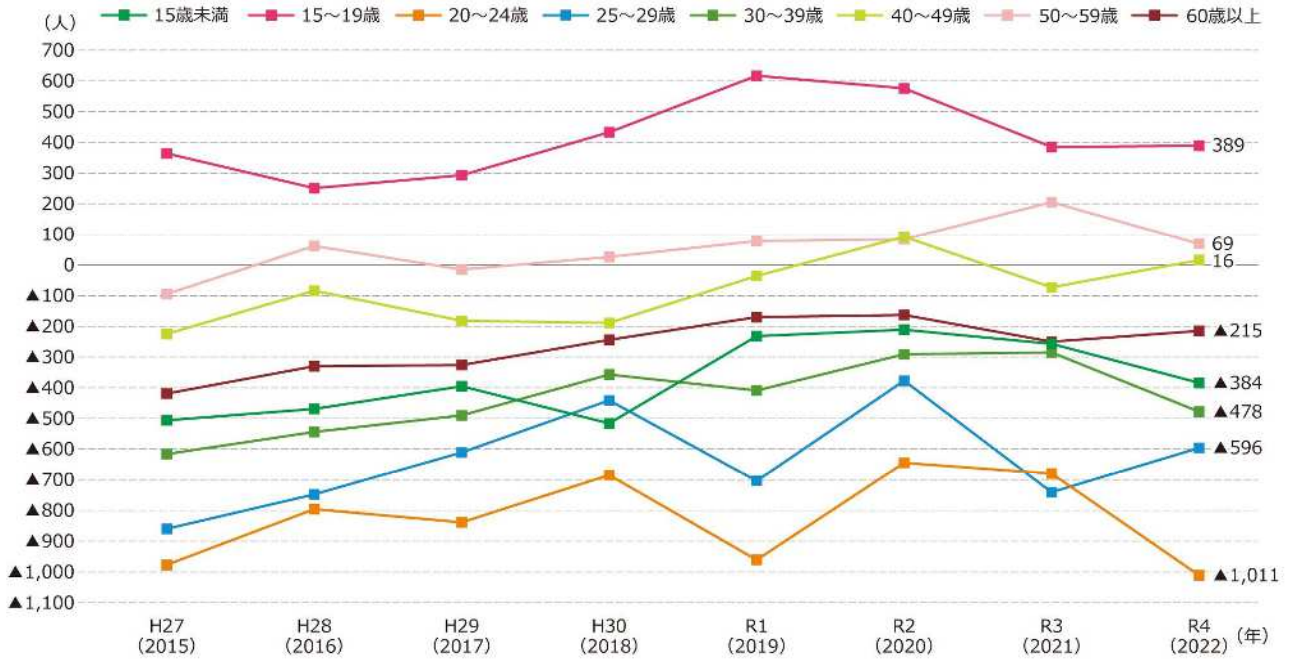
転入・転出者数の推移



出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

・転入者数と転出者数の差である「社会増減」は、昭和43年が▲約1万5千人と、マイナス幅が最も大きい。
 ・毎年の増減はあるものの、令和4年は新型コロナによる入国制限緩和を受け、外国人の転入が大幅に増加したことで、社会増減がマイナスに転じた昭和40年以降、最もマイナス幅が小さい▲48人となっている。

年代別社会動態の推移(日本人)



出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

・日本人の年代別の社会動態を見ると、毎年の増減はあるものの、20代を中心とする若い世代のマイナス幅が大きく、特に就職期である「20~24歳」のマイナス幅が大きい。

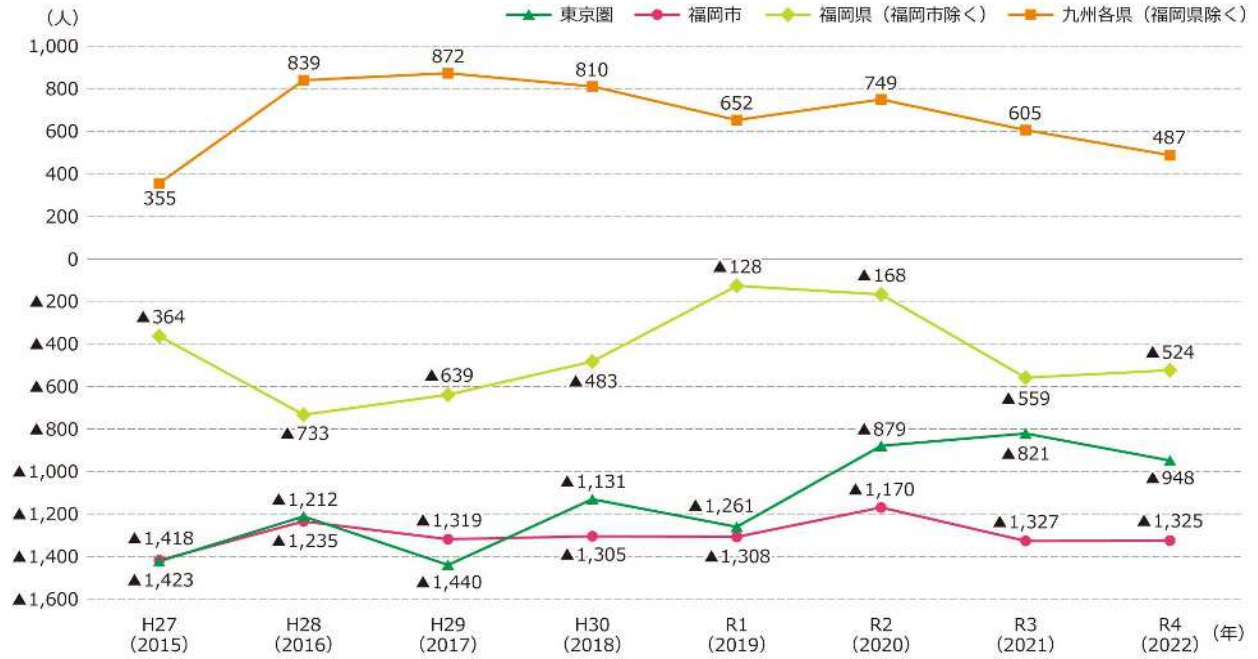
北九州地域の大学等3月卒業者の年別・市内就職率の推移



出典：北九州市

・令和4年3月の北九州地域の大学等の市内就職率は、大学は22.6%、短大・高専は43.3%、高校は59.5%となっている。

主要地域別の社会動態の推移(日本人)



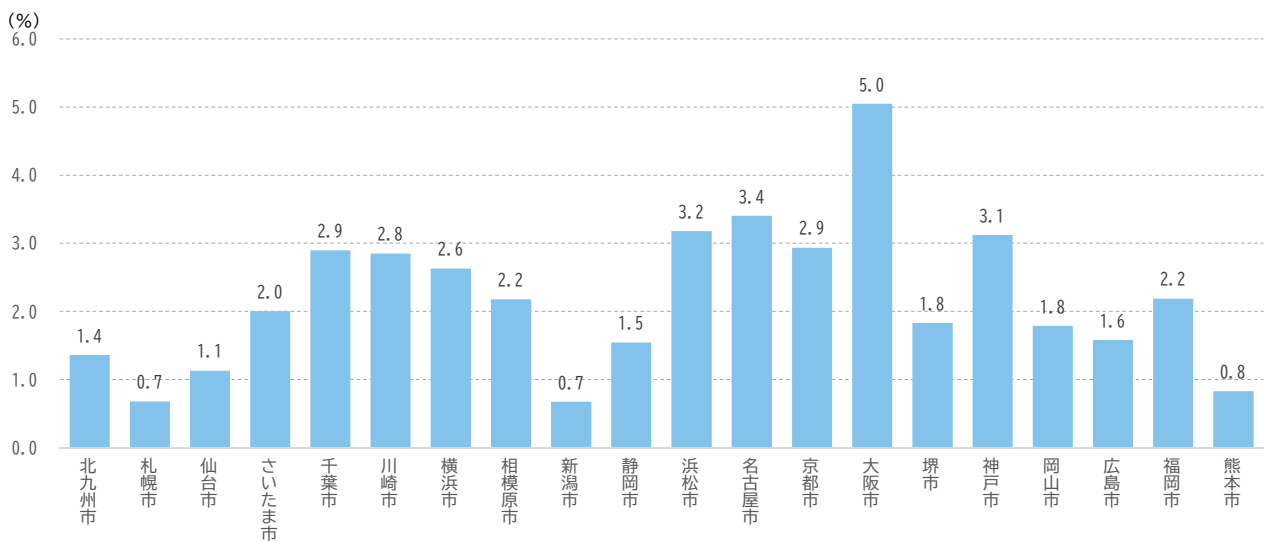
出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

・日本人の地域別の社会動態を見ると、毎年の増減はあるものの、福岡市、東京圏、福岡県内（福岡市を除く）には転出超過にある一方で、福岡県を除く九州各県からは転入超過となっている。

17

外国人住民の割合(R3年)

(政令市比較)



注：算出方法 R3年外国人住民数（R3年12月末現在）÷人口（R4年1月1日現在）×100

出典：大都市比較統計年表／令和3年、各市推計人口

・外国人住民の割合は、政令市の中で、高い順から16番目の1.4%となっている。

18